

2020 年度人間文化学科新入生ガイダンス資料 (セルフラーニング用)

人文社会科学部のガイダンスは4月23日(木)に実施予定です。集合時間・教室等は追ってお知らせします。それまでにこの資料に従いセルフラーニングをお願いします。

◎学部専門科目について

・大学の授業は大きく「基盤教育科目」と「学部専門科目」に分かれます。ここでは「学部専門科目」について特に注意する点を説明しますが、基本的にはお手元の『人文社会科学部履修要項(20L用)』(緑色の冊子の薄い方、以下『履修要項』と略称します)を熟読してください。この冊子は卒業までの4年間使用します。今後開催されるガイダンス(2年次以降にも開催)には必ず持参すること。よく読んでわからないことがあれば問い合わせてください。

・『履修要項』の他に、同じ緑色の『専門科目の授業計画』(以下『授業計画』と略称します)冊子がありますが、この冊子には今年度の開講科目が記載されています。これまでのセルフラーニングで利用した二つの冊子は全学共通の「基盤教育科目」に関する冊子です。共通する部分もありますが、科目区分が異なりますので注意してください。

・冊子の中に出てくる科目の一覧表で、「対象年次」「開講年次」として示されている学年は、その学年から履修可能であることを意味しています。たとえば、「対象(開講)年次」に「2」とある科目は2年生以上、つまり2~4年生が履修可能ということになります。ただし、資格系科目、プログラム科目の一部には、その学年での履修が義務付けられている科目もあり、その場合はその旨注記がありますので注意してください。

◎人文社会科学部の校舎案内

・『授業計画』冊子の後ろの方、時間割の前の部分に校舎案内図があります。6階建ての建物には教室の他、教員研究室や人文図書室、ラーニングコモンズ、自習室等があります。教員研究室内の電話番号、各教員のメールアドレス一覧は『授業計画』冊子6-8ページにあります。

◎『履修要項』冊子の補足説明

・以下、『履修要項』冊子の流れに沿って特に注意すべき点、補足事項等を記します（**本資料で特に言及していない部分が重要でないということではありません**）。『履修要項』冊子には「基盤教育科目」のセルフラーニング資料で述べられている内容と重複する記載もありますが、確認の意味も含めてよく読んでおいてください。

I 概要

・1 ページ下「3. 修業年限」：卒業するには4年間の在籍が必要等の基本的事項が説明されています。

II 履修上の注意

・4 ページ「1-(4)成績評価に関する問い合わせ制度について」：学部専門科目の問い合わせ窓口は人文社会科学部学務グループとなります。

・5 ページ「2. 履修科目の申告及び履修登録」：学部専門科目の履修の際には授業初回に「履修科目申告票」（学部専門科目用）を提出することになっていますが、**1年生の前期に開講される学部専門科目「学部基礎科目」（5科目履修、後述）については申告票の提出は不要**です（後述するように、学部基礎科目は登録方法がほかと異なるためです）。基盤教育科目では紙の申告票提出が必要ですので初回の授業で提出するよう注意してください。

・7 ページ「4. 学生担任と学生アドバイザー」：1年次の担任は基盤教育科目の「大学入門ゼミ」担当教員です。ガイダンスの時に紹介します。

・8 ページ「6. 転学部・転学科試験」：所定の試験と手続きを経て、入学後に他の学部・学科へ移ることが可能となっています。例外的な制度であり、詳細については掲示の形で示されるので注意してください。

・12-18 ページ「8. 教員免許取得について」：教員免許取得希望者は熟読のこと。人間文化学科では中学・高校の国語・英語、中学社会、高校地歴・公民の免許が取得可能です。**教職免許取得希望者は1年次前期から必修授業があります**。詳細は教職免許取得希望者向けガイダンス（4月24日（金）開催予定）で説明します。

・19-20 ページ「9. 学芸員資格について」：資格取得希望者は熟読のこと。ガイダンスを 4 月 24 日（金）に実施予定。

・「公認心理士」資格はガイダンスを 4 月 24 日（金）に実施予定。

Ⅲ 学部カリキュラムについて

・21-22 ページ「人文社会科学部のディプロマポリシー、カリキュラム・ポリシー」：学部カリキュラムの基本的な方針が示されているのでよく読んでおくこと。

・23-24 ページ「メジャー・サブメジャー制」：メジャー（主専攻）の他にサブメジャー（副専攻）の履修が卒業の必修要件になっています。

・23 ページ「イメージマップ（履修モデル図）」：4 年間のカリキュラムの全体像をつかんでください。「少人数ゼミ」のうち、1 年次前期の「大学入門ゼミ」は「基盤教育科目」ですが、後期に同じ教員・学生で開講される「学科基礎ゼミナール」は学部専門科目となります。大学では高校までのように毎日同じクラスメイトが同じ教室に集まることはありませんが、「大学入門ゼミ」「学科基礎ゼミナール」の受講者が「クラスメイト」に相当します。

Ⅵ 人間文化学科について

・37 ページ「2. 人間文化学科のディプロマポリシー」：学科として身に付けてほしい能力が示されています。

・38 ページ「3. メジャーの選択について」：(3) でメジャー選択の時期と手続きについて書かれています。1 年次の 1 月に希望するメジャーを申告し、もし希望者が各メジャーの上限の目安を大きく超えた場合には調整を行う可能性があります。調整を行う場合は、成績（1 年次後期までの GPA 及び 1 年次開講のメジャー要件科目の修得状況）によって調整を行います。 GPA については『履修要項』4 ページ下を参照のこと。

・39 ページ「卒業資格最低修得単位の内訳」：卒業に必要な 124 単位の内訳を示した最も重要な表です。表の上段が基盤教育科目、下段が（学部）専門科目に大きく分かれています。基盤教育科目の方が内訳が細かく分かれています。単位数としては専門科目の方がずっと多いことがわかります（『大学共通教育履修案内』冊子 49 ページの表はこの表の基盤教育科目部分のみを抜き出したもの）。今後この表は何度も繰り返し確認してもらうことになります。なお、表の下の方に「自由履修（21 単位）」という欄がありますが、最初は気にする必要は全くありません。これは普通に授業を選択して履修してゆけば卒業までに自然に

積み重なってゆく単位とを考えてください。

・41-43 ページ：2 年次から選択する 3 メジャーのカリキュラム概要です。1 年次前期から各メジャーの入門科目が「学部基礎科目」として開講されます。3 メジャーの科目がすべて必修となりますので、メジャーの学問の中身についてしっかり学んだうえでメジャーを選択してくしてください。

VII サブメジャー・プログラムについて

・各メジャーでの学修の他にサブメジャー・プログラムの履修が卒業要件となります。どのプログラムを履修するかを決定・申告するのは 3 年次の 4 月ですが、プログラム科目は 1 年次前期から開講されるので、単位は 4 年間で修得すると考えてください。プログラムの履修は 3 年次「まで」でもなく、3 年次「から」でもありません。迷っている場合は複数のプログラムから単位を履修しながら絞り込んでゆくということも可能です。ただし、資格取得を考えている人は単位の修得が困難になる可能性もありますので履修計画をしっかり立てましょう。いずれにしても 1 年生のうちから 4 年間の学びを想定しながら履修計画を立てることが重要です。『履修要項』41-43 ページにある各メジャーが推奨するサブメジャー・プログラムとの組み合わせも参考にしてください。

・サブメジャー・プログラムの説明ページにはプログラム科目の一覧表がありますが、本資料の最初の方で述べたように、対象（開講）年次に記された学年は「その学年から履修可能」であることを示しています。学年指定のある一部の必修科目を除き、必ずその学年で履修しなければならないということではありませんのでご注意ください。

・人文社会科学部地域志向教育プログラム（44-46 ページ）

全学共通プログラムである「地域志向教育プログラム」に学部独自の科目を加え、16 単位の修得が必要なサブメジャー・プログラムです。16 単位の中には全学生必修の「茨城学」やメジャー専門科目も含まれます。地域に出て実践的な学修を行う PBL と呼ばれる科目が必修となっていることが特色です。

・行政マネジメント研究プログラム（47-49 ページ）

行政職公務員となった場合に必要とされる知識や知見を身に付けるための学部独自のプログラムで、政治学、経済学、法律学の科目をバランスよく履修します。公務員と聞くと公務員試験対策のカリキュラムのように感じるかもしれませんがそうではありません。公務員試験に合格するためには並行して早めにしっかり試験対策を行うことが求められます。

・グローバル英語プログラム (50-55 ページ)

全学共通の英語プログラムの中の単位数の多い上級プログラム「Advanced GEP」を学部サブメジャー・プログラムとしています。20 単位の履修が必要ですが、全学生必修のプラクティカル・イングリッシュの単位を含みます。海外留学で修得した単位をプログラムの単位に認定することも可能です。

・日本語教育プログラム (56-58 ページ)

外国語としての日本語を指導するために必要な専門的知識と基礎能力の取得を目的とするプログラムで、全学共通プログラムがそのままサブメジャー・プログラムとなっています。26 単位の修得が必要ですが、基盤教育科目外国語科目等も単位に組み込まれています。12 単位分の必修科目が指定されているので注意してください。

・その他のサブメジャー・プログラム (59-67 ページ)

これ以降の七つのプログラムはそれぞれのメジャーが提供するサブメジャー用のプログラムになります。自分の専攻するメジャー以外にも一つの学問分野を体系的に学ぶことができます。

◎科目履修の手続きについて

○基盤科目のクラス分け

・基盤科目のうち、「プラクティカル・イングリッシュ」、「科学の基礎」、「初修外国語」、「心と体の健康」については基盤教育科目のセルフラーニング資料にある通り事前にクラス分けがなされます。必ずセルフラーニング資料を確認し、必要な手続きを取ってください。「プラクティカル・イングリッシュ」以外は Web 上での手続き (4 月 13 日～17 日) となります。

・基盤教育科目のうち、「情報リテラシー」は、「コンピューター利用に関するアンケート (Web)」によりクラス分けをします。4 月 23 日 (木) の新入生ガイダンスまでに、下記サイトからアンケートの回答をしておいてください。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=EwOyHonCO0GKuRRvQf_3O7Vcl7cD3cZDk7p_hcCKFTNUNVIBSH5NUhGUzVEOTNQN1VRMzZUVU9RVC4u (QRコードは郵送資料に同封してあります)

○学部専門科目の履修

・1 年次前期に履修する専門科目は「学部基礎科目」となります。『授業計画』冊子 25 ページに科目名と開講時間が記載されています。週 2 回開講のクォーター科目です。

・人間文化学科の学生は自メジャーの 3 科目が必修となり、自動登録されます。それ以外に、現代社会学科と法律・経済学科の科目をそれぞれ一つずつ選択し、合計で 5 科目を受講します。科目選択と登録方法については、4 月 23 日（木）のガイダンスで説明がありますが、必ず事前に教務情報ポータルシステムで各科目のシラバスを読み、「他学科学部基礎科目の履修申告票」（郵送資料）を参照の上、どの組み合わせを選択するかを考慮してから、ガイダンスに臨んでください。科目は各クォーターからひとつずつ選択することになります。

・他学科開講の学部基礎科目のうち、「入門法律学Ⅰ（法学概論）」は中学社会及び高校公民教職免許の必修指定科目になっています。免許取得を考えているはこの科目を選択することを強くおすすめします。

・学部基礎科目はクラスサイズの大きな授業となるため、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑みて開講形態を検討中です。詳細は 4 月 23 日のガイダンス時に説明します。

○時間割作成

・郵送資料の中に時間割作成シートがあります。クラス分けによって開講時間が異なる科目は括弧書きになっています。斜体字になっているのは必修の自学科学部基礎科目です。他学科開講の学部基礎科目が確定すると前期の時間割はほぼ出来上がります。

・以上の他に 1 年次前期で履修可能な科目としては、「科学の基礎」（必修 1 単位以外にもう 1 科目を履修する場合）と「健康の科学」（「身体活動」が後期のクラスになった人のみ履修可能な講義科目）があります。履修した場合は「自由履修」の単位となります。

※以上でセルフラーニングは終了です。疑問点やわからないことがある場合は、4 月 23 日のガイダンス当日とその翌日の 4 月 24 日に設置する、相談コーナー等で聞いてください。また、教職や学芸員等の資格に関することは、それぞれのガイダンスで聞いてください。